

Title	米國の貿易に就て(下)
Author(s)	下田, 禮佐
Citation	地球 (1925), 3(4): 440-449
Issue Date	1925-04-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/182850
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

米國の貿易に就て(下)

下 田 禮 佐

第三章 米國の輸出貿易に對する暗影

外國貿易が今日の國民生活の基礎であつて、輸出貿易が盛にならなければ産業は起らないことは前述の如くであるが、米國に於て將來輸出貿易の暗礁、即ち經濟界の瘤とも見るべきは次の様な點である。

(一)移民制限 米國の人口の密度は我が國の十分一で、勿論歐洲より著しく少く、其の資源の莫大なものに比すれば、甚だ過少であるが、米國は今や移民の多數入國を希望しない、蓋し今迄は資源過大、人口寡少で、資源の開拓は移民の入國に待つたのであるが、今や資源は多く開拓し盡され、例へば米國西部の農業適地などは全部拓殖され、已に資源保存の必要が論せられる様になつた。故に今後の移民増加は資源の開発を意味せずして、人口の増加、勞銀の低下、生活程度の引下を齎らすことになる、そこで已に戰前から移民制限の傾向があつたが、戰後歐洲の特に南歐、東歐あたりから窮民が殺倒することを防ぐ爲めに、屢移民法を改正して、移民には入國税を課し、學力試験をする、更に一九二一年には各國からの毎年移民數を其の國民の現在在米移民數の三%以内に限るこ

と、し、更に本年移民法を改正して此の制限を嚴重にし、日本人の如きは全然入國されなくなつたのである。移民制限の理由は、移民が大都市の一區劃に密集し、陋巷に過集するため生活程度が低くなり、病氣不道德が流行し、又ある種の不熟練労働者を多く要する産業、例へば鑛山業や製鐵業などに移民が集中する、かく一地域、一産業に生活程度の低い安い賃銀の勞力が多量に出現すれば自然勞銀を低下せしめる、米國労働者の生活程度を低下させる、米國の制度上にも面白くないと云ふのである、一言にして云へば(一)歐洲人が重税と生活苦を逃れる爲に米國へ殺倒することは迷惑である、(二)労働者の側から云へば賃銀の低下、失業労働者の増加を招く、此事は殊に戦後の不景氣に際し労働者の恐れる所である、(三)移民の同化が中々困難で、戦時に約一千萬人の未同化移民が居た、之は不消化物が胃にたまつてゐる様なもので、戦争中など殊に恐るべきものである、故に已入の移民を同化し切れない中は成るべく新入を許さないと云ふのである。

かく米國が移民に對して門戸を閉鎖した結果は、米國と歐洲や東洋とは益人口の密度の差が甚しくなる、生活の程度が違つてくる、賃銀・生産費の差額が増大する、その上一九二二年の關稅法で一般に輸入税が非常に高くなつて従て米國の物價が一般に高くなる、移民制限と輸入税引上は米國の生産費を高くし、輸出を困難ならしめることは疑ない。

(二) 爲替相場の昂騰 世界大戰以來、歐洲交戰國の爲替相場は著しく下落し、特に露・獨・埃・

伊等を眞先とし、佛國、次で日本なども最近甚しく下落し、之に對して米國の爲替相場は著しく騰貴してゐる、歐洲各國並に日本の對外爲替が著しく下落したのは、(a)貿易のバランスが著しい輸入超過であること、貿易のバランスは爲替の需要供給の額を決定し、隨て爲替相場を決定する、例へば我が國の如きは、大正八年から本年六月迄に二十七億圓と云ふ輸入超過となる、すると日本向賣爲替が市場に殺倒するから日本向爲替は忽ち崩落する、戰時日本が輸出超過であつたときは對米爲替五十二弗まで上つたのに、今四十弗内外となつたのはこの理由からである。經濟發達の初期にあつて、債務國であつて原料を輸出する國、例へばアフリカの殖民地や支那の如きは常に輸入超過であるから其の爲替相場は常に安い、之を救ふには、其の債務を長期の借款にする、即ち外國が之に投資する、すると産業は發達し、輸出は増加する、爲替は恢復する。今の歐洲は之と同様で産業が破壊され、輸入超過で爲替が安いから米國で投資しなければ永久に恢復困難で購買力もなく米國品を輸出することも出来ない、米國が一方歐洲の政治的紛争外に超然しやうと云ふ傳統的政策と、他方ドーズ委員會案の如く、獨逸の賠償を圓滑にし、歐洲の復興を容易ならしめん爲に、獨逸の中央銀行設立、鐵道會社創設等に米資を出資しやうと云ふ進取的政策との間に躊躇してゐるのは、歐洲に投資しなければ貿易は盛にならず、投資することは國民的傳統に反すると云ふデレンマにかゝつてゐるのである。(b)紙幣發行額と準備金との割合、紙幣を濫發すれば、其の價值が下る、隨て

準備金を豊富に擁してゐる國に對し爲替相場下落するのは當然で、獨・埃・伊・佛の爲替相場下落は紙幣濫發が主原因である。紙幣濫發を止めない限り爲替相場の安定は無理である。米國の如き輸出超過の上に年々正貨の流入が止まないで多額の正貨準備を有する國が歐洲や日本に比して爲替相場著しく高いのは當然である。然るに日本のある知名の實業家で紙幣を濫發することが經濟界不景氣救済の最良の方法だと説く人がある、それは紙幣を濫發すればつまり通貨膨脹で、金利が安くなる、金まはりがよくなる、隨て生産費が安くなり、對外爲替の下落で輸出が刺激されると云ふのである、而し對外爲替が下落したからとて輸出が振興するものでないことは獨・佛・伊などの實例で明かであつて、却て輸入原料が高くなつて産業經營を困難ならしむることは現今原綿高で經營困難に陥てゐる紡績業でもよく分る、況んや紙幣の濫發は、(イ)物價騰貴を招き、國民生活を困難ならしめ、社會的不安を助長し、(ロ)現金、有價證券等の所有者の資産を沒收するにも等しく、結局社會的擾亂を招く極めて危険な思想であつて、一部資本家の利益のみを考へて社會生活を脅かす議論と云はなければならぬ。(ハ)人爲的手段による爲替相場の變動である、其の著しい例は今我國で實行してゐる金の輸出禁止、即ち貿易の決濟其の他正貨の輸出必要のときは特許制度で在外正貨を拂下げる、而して輸入に要する信用狀には手加減を加へ猥りに之を發行しない、かくすれば正貨の自由流通を妨げるから輸入超過國の爲替相場は下るばかりである、若し此の場合に金の輸出を自

由にすれば、爲替相場は所謂正貨現送點以下にならぬ、其の代り今の日本の如く輸入超過のつく時は保有正貨は忽ち減滅する。以上の如く貿易入超、紙幣濫發、人爲的手段の三つの理由で諸外國の對米爲替相場は暴落し、米國の爲替は甚しく騰貴した、其の結果米國品は海外に於て著しく高價になつて其の輸出の前途を不安ならしめる。

(二) 國際貸借關係の變化 前述の通り米國は戰前は貿易外支拂勘定年額五億弗あつて、それと輸出超過と差引されて居たが、今や米國の有する對外債權は百五十億弗に上る、今此の利子を年額七億五千萬弗とすれば、戰前の五億弗の支拂勘定と合して十二億五千萬弗だけの貿易外所得がある、故に貿易の輸出超過は、移民送金、觀光團持出金等で差引きされたとしても、少くとも此の十二億五千萬弗だけは、(a)輸出を減するか、(b)輸入を多くするか、(c)貸付或は投資するかの外はない、而して輸出減少は結局國內の産業萎縮、失業者増加を來すから出來ない相談である、輸入増加は歐洲産業の破壊で之も不可能である、結局輸出超過を貸付に振りかへ、又は海外に投資する外はない、之は決して歐洲に限らない、東洋でも南米でも兎に角海外に貸付又は投資しなければ米國品の輸出は困難になつてゐる。最近米國は貿易の輸出超過と對外債權との爲に、年々正貨が流入して、一九二三年六月に終る三個年間に正貨の入超十二億弗に達し、隨て金融は未曾有の緩慢を極め、金利は非常に低落し、資金が横溢して頻りに海外に投資の途を求めてゐる。世界各國窮乏して

皆購買力はなく、而も物資に缺乏してゐるのであるから、米國としては物資を輸出して債權に振り替へることが、産業振興、正貨の資金化の唯一の方法である。之を我國に見るに、貿易の入超と貿易外受取の減少の爲に、一時二十一億七千萬圓に上つた正貨は、金輸出禁止在外正貨拂下に手加減を加ふるに係らず今や十六億三千万圓に減じ、金利は日に高く、産業經營を妨げ、證券は下落して其の担保力を減じ、對外爲替は暴落するのと比較すると實に天地霄壤の差と云ふべきである。

第四章 輸出商に對する信用の擴張

現今米國の貿易政策としては、輸出額減少も、輸入額増加も困難であるから、結局對外貸付投資によりて輸出を盛にする外はない、而して貸付には短期と長期とある、歐洲の中立國や、英國、日本などは戰禍を蒙らなかつたのであるから、産業機關が破壊されてゐない、故に短期の信用設定で間に合ふ、長期貸付は、戰時中輸入超過決濟の爲めに發行した短期公債を借替整理する爲にのみ必要なのである。而して輸出商人に短期信用を與へるには聯邦準備制度と云ふのがある。之は一九一四年十一月から實施されたものであつて、ワシントンに聯邦準備委員會をおいて之が指揮をする、全國を十二區に分ち、各區の樞要なある町に「地方聯邦準備銀行」を置く、各國立銀行は凡て準備銀行の一員たることを要する、州立銀行も成るべく之に加入する、而して各區の聯邦準備銀行は各其の區の中央銀行となり、區内のメンバーたる銀行は準備銀行に準備金をおく、準備銀行は一般公衆

どの取引事務は數種の事務に限られ、其の主な仕事は寧ろ其のメンバーたる銀行の銀行であつて、其の手形の再割引、保證等である、之に由て準備金の「集中」と各區内銀行の「協力」と云ふ目的が達せられる。又之に由て通貨に弾力性が與へられた、即ち通貨の量は商業取引の高に應すべきものであるが、各區の準備銀行は區内のメンバー銀行が商人から受取た手形を出して再割引を求めるときは紙幣を發行する、其の紙幣は取引の必要に應じて出す、之には四〇%の金準備をおく、緊急の場合には制限外の發行も出来る。此の準備銀行は戰爭中は個人商業の機關となり、又政府の機關として働いて、自由公債の成立を助けた、而し其の事務の繁忙に伴つて、紙幣の大膨脹と積立金の膨脹とを來し、之が物價騰貴、信用の膨脹、投機流行と相俟つて、其の反動が來て一九二〇年に、不景氣、物價の下落を來したが、準備銀行が割引歩合を引下げたので投機は抑制され、購入差控へ、外國注文の減少で物價は下落し、通貨は收縮された、此年商會の破綻したものは僅に〇・五%であつて、戰爭以來急に膨脹した異常な經濟狀況は準備銀行の努力で漸次常態に復し、恐慌を未然に防ぐことが出来た。此の準備銀行のメンバーに入つてゐる銀行は輸出商人に對し充分信用を與へることが出来る、その上に割引銀行と云ふ制度がある、之は資本及び剩餘金の數倍の信用を與へ得る。

聯邦準備銀行制度は六個月以上の信用を許さないが、聯合國の復興、南米の開發等には長期貸付が必要である。長期貸付には(a)政府貸付、之は日本でも露西亞に對し軍需品を賣た代價を政府が

肩代りしたが、結局取れなかつた、米國でも歐洲交戰國への賣掛代金百億弗を米國聯邦政府の貸付としたが、とかく政府間だと、個人同志と違て、信用の精査が不十分で、相手の國の課稅力をあてにしすぎたり、利子元金支拂に文句がつき易く、現に英國はさすがに三分利付年賦償還を約し實行してゐるが、佛伊の政治家は利子どころか、借金の棒引を主張してゐる位で、米國の輿論は其の當時から政府の貸付に反對してゐる、それで先づ今後は政府から貸付はないものと見られる。(b)次に米國では五年以内の貸付をなして貿易を促進する爲に資本金五億弗の戰時財政會社を創立し、政府が之を後援した。(c)次には個人貸付で之には投資トラストと云ふのがある、ある事業又は海外の一地方に投資することを目的としたトラストである。

結 論

之を要するに、米國の經濟狀況は世界大戰を區劃として全然一變し、債務國から債權國にかはり、加ふるに連年貿易輸出超過で、正貨の流入絶えず、金融は緩慢に金利は低下し、正貨の資本化の爲に、メキシコ、西印度、南米、支那等に於て、石油、鑛山、鐵道其他各種の事業に投資し、或は久しく形勢を觀望して居た歐洲の復興にも正に力を添へようと云ふ程である。勿論貿易の前途には、保護關稅、移民制限、爲替關係等で米國の輸出品が高價となると云ふ様な障害はあるが、米國で貸付けさへすれば輸出の前途は洋々たるもので、現に世界的不景氣で貿易は一時よりは衰へてゐ

るが尙依然輸出超過である、蓋し歐洲の復興や日本の震災後の復舊は米國から機械や材料を購入しなければ不可能であるからである。之を我國と比較してみるに貿易上から考へても決して同一視し得ない事情がある。米國は八百萬方籽の面積を有し、國內に各種の資源産物を有するから、所謂自足自給が出来る、外國貿易は死活問題ではなくて、却て國內貿易は外國貿易の十倍、即ち外國貿易年額百億弗とすれば國內貿易は千億弗の巨額となる、故に米國の産業は内國市場を目的とし、外國市場は片手間と云ふことになる、故に關稅政策も國內市場を外國品の侵入に對して保護すればよい、之に反して日本では多くの商品特に生絲、茶、木綿製品などは外國市場の形勢で盛衰が決定する、即ち物價が高ければ輸出が不振となり隨て其の産業は衰へる、現下不景氣の主要原因は輸出不振である、而して輸出不振は、(一)物價騰貴、(二)金利昂騰で生産費が高くつき、採算不引合に陥るからである、此際生産費を引下げるには、物價を引下げる(それに由て、俸給、賃銀、家賃代、利潤配當を安くする)、金利を安くすることが必要である、而して金利引下は、兌換券の増發、一時的の景氣煽揚等の人爲的手段に出でず、寧ろ事業の緊縮、財政の整理による公債募集の見合はせ、消費節約等によるべきである、輸出振興には生産費を安くすると共に事業經營法を改善する必要がある、米國の如きは多くの事業がトラスト企業である、之はある商品の原料の生産から製品の運搬販賣までを同一系統の企業の下におくから、生産費が省かれ、廢物、副産物が利用され、市場

の形勢に應じて生産額を調節し得られ、其の産物は品質が一定され、進では市場を獨占することも出来る、本邦の輸出品は從來手工品が少くなく、機械製品と雖も小工場並立の爲、品質不統一で此點が米國人などには氣に入らない、又競争の弊がある、生絲貿易の改善などについてはそれが米國向であるから將來特に品質の統一に注意する必要がある。商業道德の向上、それは單に商品について見本と異なるもの又は見かけ倒しの物を賣らないのみらず、受渡期日、手形決済の條件を確保することも必要である、又輸出品の検査を嚴重にする、輸出商人に對する金融、輸出商のカルテル、輸出商と生産者との相互的援助、輸出商と海運業者との連絡等も凡て必要なことで、米國の如きは船舶院が多數の船を持て、之を世界の重要航路に配し、優秀船を各ラインに貸し下げて經營せしめ、其の運搬貨物に對しては、國內鐵道運賃の特惠的割引、噸稅其他米國港内諸掛の輕減をしやうとしてよく問題を起してゐる。現今我國の輸出振興、不景氣挽回策としては、物價引下、生活費低下より急なことはないのであるが、我國が不景氣、金融逼迫、事業萎縮の中にあつて、而も物價が依然高く、世界一の物價指數を示してゐるのは、人口増加の結果地代家賃が高すぎることで、世界大戰以來人々暴利になれて商人が中間手數料を高くとりすぎることによるので、凡て家賃、地代、中間手數料、俸給、勞銀等がせめて平均して戦前の五割増位とり、物價の平均指數がまたその位になつたら我が國も亦輸出は盛になり、爲替は恢復するであらう。(完)